

令和2年度大学教育再生戦略推進費 「知識集約型社会を支える人材育成事業」計画調書

[基本情報]

1. 大学名	信州大学							
2. 機関番号	13601							
3. 事業者 (大学等の設置者)	ふりがな はまだ くにひろ (氏名) 濱田 州博	(職名)	国立大学法人信州大学 学長					
4. 申請者 (大学の学長)	ふりがな はまだ くにひろ (氏名) 濱田 州博	(職名)	信州大学学長					
5. 事業計画責任者	ふりがな まるはし しょうたろう (氏名) 丸橋 昌太郎	(所属・職名)	信州大学社会基盤研究所 所長					
6. メニュー	メニュー I 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム							
	事業計画名	全学横断特別教育プログラム「ライフクリエイター人材養成コース」						
7. 事業プログラムに参加する学生の所属学部等名	人文学部, 教育学部, 経法学部, 理学部, 医学部, 工学部, 農学部, 繊維学部							
8. 事業計画のポイント(400字以内)	<p>本事業は、本学の研究改革の中核の「先鋭領域研究融合群」で成果を出し始めている融合研究方法論を、学際教育改革の中核である「全学横断教育プログラム」のデータサイエンス教育に活用して、各専門分野に軸足を置きつつも、自らの専門分野の範疇を理解した上で、他の専門分野と共同して、問題を解決できるAI人材「ライフクリエイター」の育成を目指すものである。本事業は、成果指標として、軽井沢町の政策課題を学習に取り込み、これに対する政策コンテスト、そしてその社会実装するビジネスコンテストを実施する。その際に、ディープラーニング協会のG検定や外部評価を活用することにより、客観性が高く、また実際に社会に求められる人材の育成を目指す。あわせて、大学改革の一環として、広報ファンドレージング室を設置して、これらの成果を発信しつつ、ライフクリエイター教育に対する資金を集めて、持続可能な仕組みとしていく。</p>							
9. 学生・教職員数		学生数				教職員数(R2.5.1)		
		入学定員 (令和2年度)	全学生数 (R2.5.1)	収容定員 (令和2年度)	定員充足率 (R2.5.1)	教員数	職員数	合計
	学部	2,060 人	8,864 人	8,336 人	106.3%	1,027 人	1,531 人	2,558 人
	大学院	768 人	1,935 人	1,685 人	114.8%			
合計	2,828 人	10,799 人	10,021 人	107.8%				
10. 連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)	該当なし							
11. 学校教育法施行規則第172条の2第3項において「公表するものとする」とされた教育研究活動の状況について、公表しているHPのURL	https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/							

12. 事業計画経費(単位:千円) ※千円未満は切り捨て							
年度(令和)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計	
事業規模	32,390	49,220	47,220	47,220	47,220	223,270	
内訳	補助金申請額	32,390	49,220	47,220	31,480	15,740	176,050
	大学負担額				15,740	31,480	47,220

※1. 文部科学省や他省庁が実施する他の補助金は「大学負担額」に計上しないこと。

※2. 国立大学における運営費交付金、公立大学における運営費交付金等、私立大学の私立大学経常費補助金等は「大学負担額」に計上しないこと。

13. 事業プログラムの受入学生定員(1学年あたり、事業最終年度)	
20	名

<メニュー I のみ記入>

	大分類	中分類	小分類
14. 専門分野 (主たる分野の順に記載してください (最大5つ以内))	その他	X9_その他	75_総合人間学
	保健	M2_医学	01_医学
	社会科学	C2_商学・経済学関係	03_経済学(類)
	社会科学	C1_法学・政治学関係	01_法(学)(類)
	工学	G2_電気通信工学関係	21_情報工学
	15. 授与する学位 分野・名称	学士(文学, 教育学, 経済学, 法学, 理学, 医学, 看護学, 保健学, 工学, 農学)	

(大学名:信州大学)

(事業名:全学横断特別教育プログラム「ライフクリエイター人材養成コース」)

情報によって組織や社会に操られずに、自らの人生を創造できるAI人材を養成する

全学横断特別教育プログラム「ライフクリエイター人材養成コース」

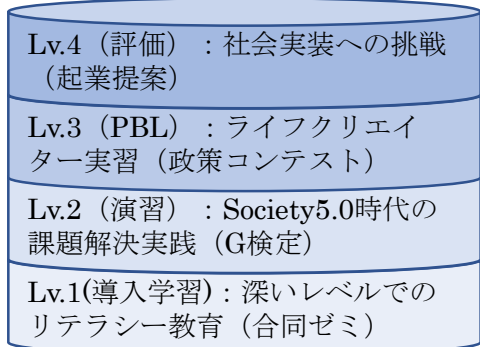
背景

- 地域の課題は、複合的な問題が複雑に絡み合い引き起こされているため、一つの専門分野では解決できない
- 情報がAIによって制御されて、個人々に届く情報が偏在化し、情報により人々が組織や社会に支配される危険性

AIスキルを持ったライフクリエイター人材の必要性

- 各専門分野に軸足を置きつつも、自らの専門分野の範疇を理解した上で、他の専門分野と共同して、問題を解決できる能力
- 情報を多角的に分析・取扱い、AIスキルにより未来を創造する能力

AI教育の一般化に向けたカリキュラムの構築



AIを駆使して地域・社会で活躍する「ライフクリエイター」

育成する人材像

- ①AIジェネラルスキルを有した人材：AIの技術的な理解だけでなく、歴史や法学、知財、現代的課題など、文理を超えてAIを活用する
- ②学際協働力を有した人材：各専門分野に軸足を置きつつも、自らの専門分野の範疇を理解した上で、他の専門分野と協働して、問題を解決する
- ③社会実装力を有した人材：協働して創出したアイデアを社会で実装する

これまでの連携実績

軽井沢町との寄附講座の設置
と文理融合研究の実践

軽井沢町というフィールドを
活かした住民データの活用

深刻な地方のAI人材の不足

文理融合型のAI人材の育成と全学教育改革の実現

これまでの研究改革

先鋭領域融合研究群
「社会基盤研究所」の設置

教員の横断

学部生の横断

これまでの教育改革

- ・ 経法学部の設置
- ・ 全学横断プログラムの設置

